

D 特別支援学校（聴覚障害）

（1）学校の概要

D 特別支援学校（聴覚障害）は、高等部本科（普通科、重複障がい学級、工業テクノロジー科、情報コミュニケーション科、ライフ・サポート科）と高等部専攻科（工業テクノロジー科、情報コミュニケーション科、ライフ・サポート科）がある。全校生徒 100 名程と教職員 70 名程で構成されている。

キャリア教育を土台に学力向上と資格取得を図り、大学進学や部活動に力を入れている。生徒自身が ICT 活用を行い、自己表現力、自学学習、自己管理の向上を図っている。文字情報システムと合わせた情報保障が充実している。

（2）ICT 活用状況

学校経営推進費事業として平成 25 ～ 27 年度「全ての教室で ICT ～聴覚障がい生徒の情報保障の拡充による進路指導の充実と学力の向上」に取り組んでおり、1 年生、2 年生全員には、一人一台の iPad が就学奨励費で購入されている。基礎的環境整備も進められており、各教室に大型ディスプレイが設置されている。学校マネジメント経費の一部活用と合わせ、校内無線 LAN 体制を築き、校舎内を 4 ～ 5 ブロックに分けて無線 LAN が使用できることにより、各教室での iPad の活用ができるようになった。管理体制も明確にして設備面での充実が図られ、校内クラウドを構築し教科指導に利用している。

さらに、緊急時の対応や日常の連絡等への対応として「文字情報システム」が活用されている。「文字情報システムは、聴覚に障害のある生徒・教職員に対し、安心して学校生活を過ごすために、校内放送に代わる情報伝達手段として、整備された。」特に緊急時において、聴覚障害のある生徒・教職員に情報を伝達し安全確保を図ることが重要である。日常的に ICT 機器に触れることで、早く画面を観る習慣ができ、緊急時においても生徒が対応できる力を養っている。

（3）事例

1) 校外学習で iPad を活用した情報保障を行った事例

見学地のガイドにワイヤレスマイクを付けていただいて、ガイドの音声を学校に送り、それを待機教員が要約筆記をして生徒の iPad に送信し、現地へ持参した iPad に表示させた。見学では、暗い空間で映像を観ることもあり、手話通訳が見つらいこともあったが、iPad により情報保障がされた事例である。

2) 校内でクラウドを利用した教科学習の出題の事例

各教科担任が問題文をクラウドに上げて、生徒がアクセスを行い、問題を解くなど自己学習に取り組むなどしている。なお、生徒がわからなかった問題については、翌日、担当教員のところへ尋ねるなどして解答方法の理解につなげている。

3) 生徒が自分の iPad 画面を大型ディスプレイに映し出すことで、問題例や解答を共有するために利用した事例

各教室に大型ディスプレイを設置しており、各生徒が自分の iPad 画面を大型ディスプレイに映し出し、授業において問題例や解答を共有するために利用している。

また、プレゼンテーションとして、教師も生徒も多人数を対象とした授業でも使用している。情報コミュニケーション科では、専門教育で培ったマルチメディア活用能力や画像・動画の編集技能を活用し、普通科や他の学科の学習コンテンツ（教材）づくりなどに取り組んでいる。独自の学習ソフトの開発や情報コミュニケーション科の専門性を高めることにつなげている。

4) 海外のアメリカ手話者とスカイプでつなぎ語学学習に取り組んだ事例

海外のアメリカ手話者（アメリカにおいて手話を主たるコミュニケーション手段として用いる人）とスカイプでつなぎ、ASL (American Sign Language) の講義を受け、生徒が留学も視野にできる語学力も身に付けられる学習の取組みが行われた。ASL と日本語の両方を指導ができる教師が少なく、現在はハワイに専門家（教師）が在住している。そこで、ハワイ在住の教師とスカイプでつなぎ、ASL の講義を実施することができた。講義を受けた生徒が、「今まで想像しかなかったアメリカ留学に希望がもてるようになった。」と語っていた。

(4) 特徴的な点に関するまとめ

事例1) のように、情報保障に iPad の活用が始まっている。従来は文字情報ディスプレイに要約筆記（聴覚障がい者への情報保障手段の一つで、話されている内容を要約し、文字として伝える）を表示していたが、教師から離れた位置からは見づらい、ディスプレイが設置された部屋でしか利用できないなどの難点が指摘されていた。

事例1) は、無線 LAN を利用して、各自が持っている iPad に要約筆記を表示する形で情報保障を試行することで、暗い場所やディスプレイが観づらい位置でも容易に情報保障につながった特徴的な事例である。字幕に関して表示にタイムラグが起こるなどの課題も残ったが、生徒たちからは、今後も継続を望む声がある。システム改善の必要は残るが、今後の活用が期待される事例であると考える。

(定岡 孝治)

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」（平成 28 年 3 月），75-76 に記載された内容である。